



◇ 石碑石仏の確認調査 ◇

未指定文化財を含む町内の文化財について、総合的な保存と活用の計画を策定するため、「えりも町ふるさと再発見シリーズ2石碑石仏」に掲載されている71箇所の子碑石仏を中心に調査を実施しています。

6月5日(土)上歌別地区、10日(木)上歌別・大和地区、23日(水)目黒地区の子碑石仏調査を実施しました。

現在、51箇所の石碑石仏を確認し、残り20箇所の他に未確認の子碑石仏の調査を随時行っていきます。

皆さんが住んでいる地区で、「石碑石仏」の情報がありましたら、郷土資料館までご連絡ください。



写真上: 左から名馬フィック號之碑、馬頭觀世音菩薩、馬頭觀世音

写真下: 石碑石仏に掲載されていない「白龍神黒龍神」の子碑

◇ 郷土資料紹介 ◇

今回は、「魚粕釜」について紹介します。魚粕釜は、「にしん釜」・「いわし釜」・「あぶら釜」とも呼ばれています。

イワシやニシン、カレイが大漁だった時代、食用の他に、魚粕は肥料として使われていました。

特に魚粕などは、「稲作や綿花、藍の栽培を生業とする本州の農業地域に出荷され、他に、煮ているときや絞っているときに出る魚油も商品として出荷していました。

ニシン粕は養分が豊富だったことから「金肥」とも呼ばれていたそうです。

●魚粕とは

イワシやニシンなど、獲れた魚を鉄釜でしっかりと煮てから、圧搾器にかけて水と油を搾り、残った魚肉を砕いて乾燥させたものを言います。



写真: 資料館に展示している「魚粕釜」

地名の由来 ～ ヤギベツ(焼別) ～

原名「ヤンケペツ」(Yankepet)です。語源は「ヤンケ・ペツ」(Yanke-pet (舟を陸上げする・川) という意味です。

自然の地形が、防波堤のようになっていて、舟つき場の役目を果たしていたと思われます。

焼別川は、道道襟裳公園線の輝橋(かがやきばし)の上流から海へ流れています。



写真：道道襟裳公園線の輝橋の下を流れる焼別川



写真：ヤンケ・ペツの河口

郷土資料の寄贈がありました

6月8日(火)、歌別地区の方が、水瓶(みずがめ)2点(直径43センチ、高さ49センチが1点・直径40センチ、高さ47センチが1点)の貴重な郷土資料品を寄贈してくれました。

寄贈者のお話では、70年以上前から使用されていたそうです。



写真：寄贈いただいた水瓶(みずがめ)

来館をお待ちしております

北海道に緊急事態宣言が発令され、5月15日(土)から6月20日(日)まで休館となっていました。6月21日(月)から再開しました。

資料館を訪れる際には、「新型コロナウイルス感染症」の予防対策(マスク着用等)をとってお越しくください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「図書コーナー」及び「キッズルーム」の利用はできません

7/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
○	○	生き物調査隊	○	○	休館日	○	○	○	わらしやんど事業	○	○	休館日	○	○	○	○

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	8/1	2	3
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日

7月～8月の
開館カレンダー